

名古屋まつり協賛

日本古武道大会

日 時 平成 29 年 10 月 22 日（日） 午前の部 10:30～12:30
午後の部 12:40～16:25

場 所 熱田神宮神楽殿前広場 <午前の部>
熱田神宮文化殿講堂 <午前の部・午後の部>

（駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。）

主催 日本古武道振興会

目 次

I 挨拶

名古屋まつり協進会 会長	河村たかし	1
日本古武道振興会 会長	飯篠 快貞	2
日本古武道振興会 愛知県支部長	柳生耕一厳信	3

II プログラム・演武者名簿（演武順）

午 前 の 部 <熱田神宮神楽殿前広場>

1. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式	4
--------------------------	---

<熱田神宮文化殿講堂>

1. 合 気 道	5
2. 柳生新陰流兵法	5
3. 神道夢想流杖術及併伝武術	5
4. 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法	5
5. 天道流なぎなた	6
6. 神道無念流剣術	6
7. 立 身 流	6
8. 柳生制剛流抜刀	6

午 後 の 部 <熱田神宮文化殿講堂>

1. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型	7
2. 柳生制剛流抜刀	7
3. 立 身 流	7
4. 竹内流腰廻小具足	7
5. 琉球古武術	7
6. 柳生心眼流體術	8
7. 宝蔵院流高田派槍術	8
8. 神道夢想流杖道	8
9. 神道無念流剣術	8
10. 関口流抜刀術	9
11. 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法	9
12. 心形刀流剣術	9
13. 神道夢想流杖術	9
14. 新陰流居合術	9
15. 柳生新陰流兵法	10

Ⅲ 流派紹介 (あいうえお順)

1. 合 気 道	1 1
2. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式	1 1
3. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型	1 1
4. 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法	1 2
5. 鞍馬流剣術	1 2
6. 新陰流居合術	1 3
7. 心形刀流剣術	1 4
8. 神道夢想流杖術	1 4
9. 神道夢想流杖道	1 4
10. 神道無念流剣術	1 5
11. 関口流抜刀術	1 5
12. 竹内流腰廻小具足	1 6
13. 立 身 流	1 6
14. 天道流なぎなた	1 7
15. 宝蔵院流高田派槍術	1 7
16. 柳生新陰流兵法	1 8
17. 柳生心眼流體術	1 8
18. 柳生制剛流抜刀	1 9
19. 琉球古武術	1 9

Ⅳ 道場及び教場所所在地一覧

2 1

祝 辞

名古屋まつり協賛第56回「日本古武道大会」の開催、誠におめでとうございます。

本大会が、このように盛大に開催されますのも、日本古武道振興会をはじめ関係者の皆様が日ごろから伝統武道の保存・発展にご尽力を重ねてこられた賜物と心から敬意を表します。

さて本年も、九州地方を襲った集中豪雨や、ゲリラ豪雨と呼ばれる突発的かつ局地的な大雨が多発するなど、自然災害が日本各地で多大な被害をもたらしました。このような災害で被害を軽減するためには、自分の身は自分で守る「自助」、行政による「公助」、近隣で互いに助け合う「共助」が組み合わさることが重要になります。このうち他者をいたわるという「共助」の精神は、古来より信義・礼節・友愛を基とした日本の精神文化により育まれてきたものだと思います。この精神に裏打ちされた古武道を、不断の努力により継承されている貴会をはじめ関係者の皆様に改めて敬意を表します。

本大会では、長い年月をかけて磨きあげられてきた各流派の宗家・師範の皆様の精緻な技術と高邁な精神に裏打ちされた演武を通して、古武道の素晴らしさを市民の皆様に感じていただけるものと大いに期待しています。

貴会の皆様には、伝統武道の継承に引き続きご尽力をお願いいたします。

本大会のご成功と貴会の今後ますますのご発展ならびに本日お集まりの皆様のご健勝を祈念いたします。

平成29年10月22日

名古屋まつり協進会会長

名古屋市長 河村 たかし

ご 挨 拶

このたび、名古屋まつり協賛第56回熱田神宮奉納日本古武道大会が開催されますことは、日本の誇るべき古武道文化財の保存振興のため誠に喜ばしきかぎりであります。

今日まで数百年の長きにわたり綿々と伝えられてきた古武道は、古人が戦場で生と死を賭けた戦いの中で習得した実戦武術であります。それが武士の誉れの信条であります。仁、義、礼、智、信とともに様式美さえ醸成され、日本の誇るべき伝統文化財の一つとなったものであります。そしてこの古武道は歌舞伎、演劇、映画、文学、美術などの日本文化に大きな貢献をしており日本語にまで影響を及ぼしております。まさに時空を超えた日本の表象文化と言えるものであります。

この古武道に魅力を感じた外国人も最近多くなり、各流派に多数入門し修行しております。

日本古武道振興会はこの貴重な文化資産である古武道の保存振興を目的として発足し、毎年各地で古武道大会を開催するとともに、さらに我が国における醇風美俗の維持啓発、青少年健全育成、体力増進などを掲げ活動し、今年は創立82周年を迎えております。

本日の大会は、日本古武道の保存、振興の見地から、真に有意義であり、それぞれ由緒ある流儀を承け継がれ、その道を極められた先生方によって演武されます。ご観覧の皆様におかれては、古武道の素晴らしさを認めてくだされば誠に幸甚と存じます。

日本古武道振興会

会長 飯篠 快貞

ご 挨拶

第56回「日本古武道大会」が、名古屋まつり協賛の行事として行われますことにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知のように、古武道は生命を懸けた戦いの中から相手を倒す必勝の技術を工夫して体得したことから始まりました。刀、槍、弓、杖、棒、体等を使用した武術にそれぞれ名人、達人が輩出されて、室町時代末期には各流派が誕生しました。その後、時代の変遷に伴い、徳川時代になると古武道は実戦的な技術の習練のみではなく、むしろ人間的な完成を目指す自己修養の道として、特に武士の表芸である欠かせない教養として尊重されるに至りました。古武道こそ武士が生み出した武家文化の精髓であると言えるものであります

剣を学ぶについて柳生兵庫助利厳は「三摩之位」という教えを残しております。則ち、祖師・先哲の正しい教えを、千鍛万錬の稽古を通し、工夫して自分の血肉とすることを表す、「習、稽古、工夫」であります。また、柳生石舟斎宗厳は柳生家憲の中で「昨日の我に今日は勝つべし」と、日々自分自身を向上させるように努力せよと訓示しております。

今日、ここに各流派の代表の方々が真剣に行います演武は、心身一如で行う我が国の伝統的な文化の結晶であります。我々は、この貴重な文化を風化させ喪失することなく次世代に正しく伝えていく責任があり、本日は、その責務を果たす絶好の機会があります。ご高覧の皆様にとりまして日本の伝統文化と古武道の関係を見出す機会となれば幸甚であります。

最後になりますが、今日の大会の盛況は名古屋市、並びに名古屋市緑政土木局の多大なるご後援とご尽力、そして各流派の先生方と古武道を暖かく支えて下さる皆様のご協力の賜物であると心から感謝申し上げます。

日本古武道振興会愛知県支部長
柳生新陰流兵法二十二世宗家

柳生耕一厳信

プログラム

午 前 の 部

(熱田神宮神楽殿前広場)

1. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式 (流祖) 小 笠 原 長 清

小笠原弓馬術礼法教場、三十一世宗家・門人一同

宗 家 小笠原 清忠

宗家嫡男 小笠原 清基

今 村 祝	今村 はつ代	村 田 幸 一
八 木 優	安藤 ひろ美	兼 松 邦 夫
兼 松 正 子	中 島 幸 子	福 留 裕 晃
和 田 大 地	伊 藤 宏	須 名 和 夫
九 里 孝 義	武 藤 都 代 美	稲 垣 雅 男
猪 谷 崇 明	長 谷 川 安 成	山 下 佐 智 子
長 澤 潔 子	中 尾 淑 子	林 貴 子
菊 池 建 策	鈴 木 五 十 鈴	安 藤 十 九 二
水 野 稔	山 田 彭 一	梅 田 克 一
稲 川 幸 三	柏 木 功	星 野 卓 司
関 根 崇	峯 茂 康	鈴 木 浩 一
八 田 英 明	太 田 加 壽 子	宮 崎 里 美
小 川 奈 美	林 厚 成	佐 藤 昌 二
西 能 成	森 優 史	武 山 大 貴
伊 藤 啓 子	浅 野 邦 仁	竹 内 初 重
宮 下 克 美	棚 橋 美 喜 子	舟 橋 め ぐ み

午 前 の 部

(熱田神宮文化殿講堂)

1. 合 気 道 (開祖) 植 芝 盛 平

滝 本 清 三	中 山 栄 一	川 地 利 明
堀 江 彰	安 達 弘	木 全 昭 喜
井 上 博 行	菱 田 綾	佐 藤 大 輔
山 口 伸 吾	塚 本 貴 士	清 水 寿 史
森 山 亮		

2. 柳生新陰流兵法 (流祖) 上泉伊勢守 藤原信綱

鈴 木 泰 充	伊 佐 治 誠	齊 藤 智 美
ジョシュア ライヤー	玉 越 薫	山 川 慎 太 郎
織 田 和 夫	細 井 和 子	

3. 神道夢想流杖術及併伝武術 (流祖) 夢想権之助勝吉

三 澤 芳 郎	片 田 征 治	松 宮 政 重
坂 下 國 晴	石 丸 聖 也	古 川 美 好
松 木 平 浩 司	松 宮 百 合	石 川 桂 子
稻 生 恭 子	木 村 恵 子	大 山 美 砂
内 藤 知 仁		

4. 尾張貫流槍術 (流祖) 津田権之丞信之

柳生新陰流兵法 (流祖) 柳生兵庫之助利嚴

横 地 浩 紀	新 垣 ダニエル	渡 辺 恭 平
中 村 武 靖	宮 坂 信 希	木 村 凌 弥

5. 天道流なぎなた (流祖) 斎藤判官伝鬼房勝秀

小 林 静 子	安 達 ふ み 子	渥 美 メ 代
岡 本 教 子	加 藤 寛 子	新 川 ミ キ
武 山 敦 子	滝 口 眞 澄	宮 田 尚 美
横 山 恵 美 子	若 原 貞 子	

6. 神道無念流剣術 (流祖) 福井兵右衛門

小 川 武	土 屋 正 則	高 田 一 男
浅 野 史 明		

7. 立 身 流 (流祖) 立 身 三 京

立身流嫡・宗家補佐 加 藤 敦

8. 柳生制剛流抜刀 (流祖) 水早長佐衛門信正

太 田 俊 介	高 木 要 馬	鈴 木 美 紀
伊 藤 太 一		

午 後 の 部
(熱田神宮文化殿講堂)

1. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型 (流祖) 小 笠 原 長 清

(演武者) 小笠原弓馬術礼法教場、三十一世宗家・門人一同

武 藤 都 代 美 佐 保 川 誠 中 山 隆 夫
峯 茂 康 鈴 木 浩 一 和 田 大 地
猪 谷 崇 明

2. 柳生制剛流抜刀 (流祖) 水早長左衛門信正

福 安 實 夫 柴 田 幸 芳 ジョシュア ライヤー

3. 立 身 流 (流祖) 立 身 三 京

立身流嫡・宗家補佐 加 藤 敦

4. 竹内流腰廻小具足 (流祖) 竹内中務大輔源朝臣久盛

竹 内 藤 一 郎 小 島 康 男 小 島 颯 真

5. 琉 球 古 武 術

(静 岡) 渡 辺 俊 明 萩 原 壽 横 田 秀 穂
(東 京) 道 正 泰 弘
(和歌山) 吉 田 実 辻 本 国 生 塩 田 久 男
山 口 量 也

6. 柳生心眼流體術 (流祖) 荒木又右衛門吉村

宗 家 梶 塚 靖 司
甲 斐 正 寺 久 保 敦 也 藤 澤 勝 也

7. 宝蔵院流高田派槍術 (流祖) 宝蔵院覚禅房法印胤栄

宗 家 一 箭 順 三
目 録 佐 藤 寛 西 堀 清 作 船 谷 哲 司
加 藤 了 嗣 千 田 拓 治
伝 習 生 栗 飯 原 篤 史 (説明者)

8. 神道夢想流杖道 (流祖) 夢想権之助勝吉

濱 地 光 男	富 田 隆	鈴 木 一
池 田 真 由 美	鈴 木 裕 司	上 川 純 一
佐 野 師 由	松 岡 博	吉 田 尊 臣
河 村 守 昭	樋 江 井 清 隆	西 尾 武 士
星 野 房 子	澤 山 幸 帆	宮 島 孝 之
牧 野 恭 実	鈴 木 久 之	平 野 雅 彦
渡 邊 隆	尾 関 俊 輔	中 尾 晋 介
田 邊 真	福 岡 啓 太	松 田 克 也
名 倉 隆 裕	荒 木 政 美	谷 川 岳 雄
中 川 敬 行	アラン アンダーソン	

9. 神道無念流剣術 (流祖) 福井兵右衛門

小 川 武 土 屋 正 則 高 田 一 男
浅 野 史 明

10. 関口流抜刀術 (流祖) 関口八郎左衛門源實親

宮 寄 勇 夫	徳 井 哲 夫	坂 下 忠 國
山 際 英 人	市 岡 徹 也	稲 垣 幸 男

11. 尾張貫流槍術 (流祖) 津田権之丞信之

柳生新陰流兵法 (流祖) 柳生兵庫之助利厳

下 村 幸 裕	神 戸 信 夫	下 村 直 樹
毛 利 圭 介	横 地 浩 紀	森 治 紀
山 内 一 統	神 原 会 弥	

12. 心形刀流剣術 (流祖) 伊庭是水軒秀明

小 林 強	振 角 卓 哉	伊 東 大 輔
伊 藤 加 奈	小 崎 真 也	楠 本 忠 司
野 仲 治 行		

13. 神道夢想流杖術 (流祖) 夢想権之助勝吉

三 澤 芳 郎	片 田 征 治	松 宮 政 重
坂 下 國 晴	石 丸 聖 也	古 川 美 好
松 木 平 浩 司	松 宮 百 合	石 川 桂 子
稲 生 恭 子	木 村 恵 子	大 山 美 砂
内 藤 知 仁		

14. 新陰流居合術 (流祖) 柳生但馬守平宗厳

鹿 嶋 清 治	木 下 登	園 田 信 行
水 野 孝 男	井 上 好 美	樋 江 井 和 之
宮 田 壮 一 郎	和 田 英 之	竹 野 良 規

15. 柳生新陰流兵法 (流祖) 上泉伊勢守 藤原信綱

柳生耕一 巖信	石 黒 峰 司	高 山 潤 一
鈴 木 泰 充	小 川 友 之	加 藤 成 年
細 川 和 宏	鈴 木 保 幸	